

## 2022 年度 法人事業計画

### はじめに

法人の母体である木の芽家族会が活動を開始して 40 年が経過しました。この間、様々な大災害や大事件が頻発しました。災害を忘れずに、被災者の思いと教訓を次の世代へ語り継ぐ事。事件は、その原因と共通項を検証して議論の経過を残す事が何より大切になります。人の活動に起因する事案が増える中、残念ながら「繰り返し」は避けられないと考えます。

事件の一つとしての感染症への対応で大きな公費が市中に放出され、株価のみが上がりました。国債が膨らみ続ける中、世界経済に変調があればどうなるのか。社会福祉に携わる身として不安は募ります。しかし、ここで内向きになる訳にはいきません。法人運営を継続して利用者を護る事が最大の責務です。その為には法人の原点を守りつつ、変える部分は変え続ける。その主体は人であり、方法は学びの継続と深化です。今こそ職員育成への投資と、職員一人ひとりが地域へ繋がり連携する事が何より求められると考えます。

### 基本的な考え方

- ・職員の学びの機会を保障していきます。個人が年間に使える研修受講金額を設定し、かつ全国レベルへの研修派遣にも取り組みます。同時に、ケース検討会議等の法人内での実践的なスキルアップ研修を継続します。日常的には OJT のあるべき姿を構築します。これらは、後述するキャリアプランの肝になります。若者や女性が職場や経営への発言を躊躇わない、人を大切にす明るい組織づくりを目指します。同時に、経営が厳しくとも職員の処遇改善にも取り組まなければなりません。
- ・2023 年 2 月 3 日に法人は設立 20 年の節目を迎えます。しかし年月の経過と共に、これまで積み重ねてきた歴史や先人の活動を直接は知らない若い職員が増えています。しっかりとこの 20 年を振り返って法人の原点を共有し、次項の事業計画にある通りの活動を二年度に亘り丁寧に進め、法人の次代への道標をお披露目する場を設け、これまで支え続けて頂いた方々への感謝の思いをお伝えしたいと考えています。

### 事業計画

#### ①次世代職員育成のためのキャリアプランの策定継続

前年度事業計画に基づいて開始した「キャリアプラン策定会議」を継続します。現在、外部委員のご意見も頂きながら検討を進めています。職員一人ひとりの個性や目標に応じた働き方を支える複合的な仕組みの中で、それぞれが持つ多様性を活かします。個性の集積が法人の特徴となり、より柔軟性のある組織になると考えます。

#### ②世代交代へ向けて 歴史を刻み、明日を創る検討会議記録の共有と具体化

前年度事業計画の中で開始した「検討会議」の内容を共有して、具体的な行動作業に発展させます。会議のテーマは「家族会からの学び」・「きょうされん活動の振り返り」・「法人理念のブラッシュアップ作業」・「キャッチコピーの行動化」の 4 本でした。

「家族会」では現会長から親の思いと会の歴史を語って頂き、全職員で原点を学び直す方針を立てました。今後は家族支援の在り方の検討も進めていきます。「きょうされん」は活動を振り返る中で一度退会し、今後は、職員研修・地域交流・情報収集・制度への働きかけの4項目に細分化した行動指針を確認していきます。「理念」に関しては、法人の歴史を振り返る中で、残すもの・加えるものを明確にしていきます。「キャッチコピー」の会議にも外部委員に参加頂いて3月23日に開催し、今後の議論の方針を立てていきます。

年度内に『理念』のブラッシュアップ作業を完了して、職員育成の土台となる『キャリアプラン』策定に繋がります。また、地域連携の柱となる『キャッチコピー』を具体的な行動へ「見える化」します。これらの3会議は職員全員がそれぞれに参加する形で、2023年度早期の完成へ向けて丁寧な議論を進めていきます。

- ③ご家族の強い思いで起ち上げられた無認可作業所が国の施策の中で法人へ収斂された歴史があり、未だ法人内事業所間の連携不足を認めない現実があります。4カ所ある就労継続B型事業所の各個性を確立して、同時にどうシナジー効果を発揮させるのか。2カ所の地域活動支援センターの支援対象をどう広げていくのか。就労移行と自立訓練事業をどうリンクさせるのか。また、生活支援や暮らしの場へのアプローチをどう進めていくのか。上記②の議論が深まり法人のミッションがより明確になる中で、9事業の連携体制を構築していきます。

以上